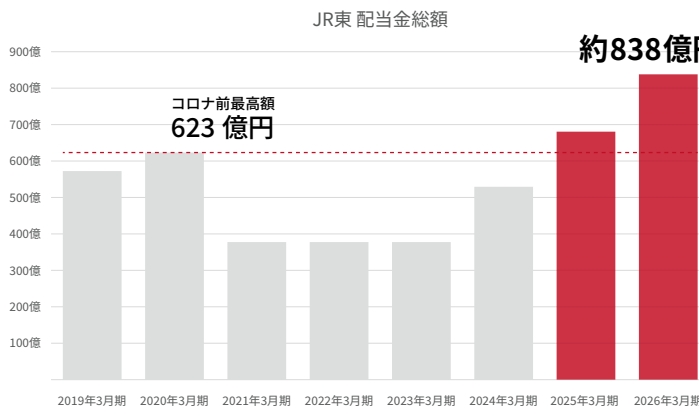


JRの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。info@doro-shien.site

株主配当 3年で460億の大増額

現場ふみにじって「株主還元」するな



株主配当約838億円

JR東日本は4月30日、26年3月期の決算短信を発表しました。

この3年の株主配当はすさまじい増額です。配当額はコロナ禍で一旦落ち込みましたが、その後急激に増額し昨年すでに過去最高となりました。今年はそのから約157億円も増やし837億7800万円です。

どこまで踏みこむのか

株主に巨額の配当を渡す一方で、現場に対して会社がやっていることは何でしょうか。

乗務手当廃止の人事・賃金制度改悪、コスト削減とさらなる業務外注化、鉄道業務をないがしろにする業務融合化、CTS等グループ会社への買いたたきと超低賃金の強制です。

さらに、来年3月ダイヤ改定では中央・総武緩行線などのワンマン拡大も強行しようとしています。千葉でもすでに4月1日の人事・賃金制度改悪を前に退職してしまった乗務員もいます。鉄道の現業で働く労働者をなんだと思っているのか。一体どこまで踏みこむれば気が済むのか。本当に許すことは出来ません。

職場から怒りの声と闘いを

しかし、会社の鉄道の現業部門を徹底的に軽視して、踏みこむ施策の矛盾はすでに明らかになっていきます。止まらない重大事故と安全崩壊、そして深刻な要員不足の中で、喜勢社長自身が「外注化のスキームは破たんしている」と言わざるを得なくなっているのです。

何より必要なのは職場からの怒りの声です。会社の許しがたい攻撃は、「職場から声が上がらない」「闘いが起きない」ことを前提にしています。ひとたび現場労働者の団結した怒りの声と闘いが巻き起これば、会社もグラグラにならざるをえません。

職場に闘う労働組合を取り戻し、「現場から搾り取って巨額の株主配当」を行う会社に、怒りの声を突きつけよう。